

第4章 研究のまとめ



研究のまとめ

1 児童生徒一人一人の「生涯学習力」の高まりに向けて

「生涯学習」とは、一般には人々が生涯に行うあらゆる学習、すなわち、学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など様々な場や機会において行う学習の意味で用いられている（文部科学省：2018）。生涯学習の内容や場所、機会などは、非常に多岐にわたる。そのため、教師一人一人が生涯学習の解釈や学習のねらいの捉えが異なると効果的な学習の積み重ねは難しいと考える。そこで、本研究では「生涯学習力」の具体化を図り、授業づくりの共通の視点として活用した。教師の共通の視点として各学部で出した「生涯学習力」を高めるために大切にしていることは、おおむね学習指導要領で示された「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関わる内容である。菅野（2021）は、生涯学習を支援する上で、目指すこととして「態度を育てる」と話した。本校でも同様に、この変化の激しい新しい時代であるからこそ、習得した事柄を働かせていく力と言われる「学びに向かう意欲や態度」を全校体制で育てようとしている（図1）。

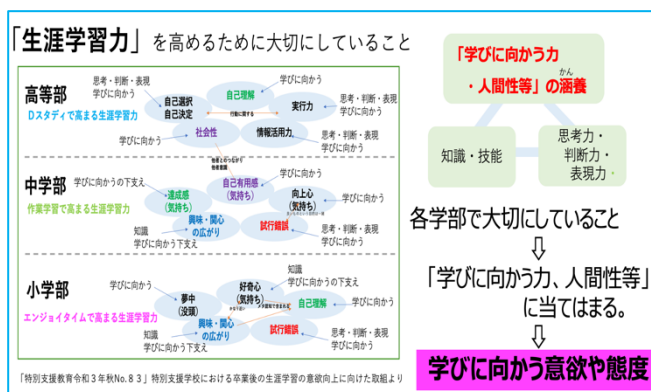


図1 各学部の「生涯学習力」を高めるために大切にすること

また、向野（2022）は、「子どもたちが学校での具体的な学びを通して「学ぶ喜び」を数多く経験させることができたかによって、児童生徒がその後の生涯を通して学び続ける力の獲得につながっている」と話しているように、今年度の実践を授業づくりの側面から見ると、「生涯学習力を高めるために大切にしていくこと」は、教師の共通の視点であり、授業づくりのねらいに当たるものである。オリジナルマップは、節目ごとに学習の履歴や児童生徒の思いを教師との対話を通して確認し、「なぜ、何のためにこの学習をするのか」という学習への目的や動機付けになる。学習のまとめに再度用いることでも、自分の学習の積み重ねや好きな場所や事柄が分かり、次の学びに向かう意欲へとつながる。地域の方との関わりや生の声を聞く機会は非常に有意義なものあり、学習の中では、学習の目的に合わせて、学習の動機付けや地域の方と学ぶ楽しさを味わうことができる。また、単元終了後の地域の方との振り返りなどの対話を大切にすることが重要になる（図2）。このように、3つのWGともに「学びの意欲や態度を育てる」ことに直結した実践となっていたこと分かる。

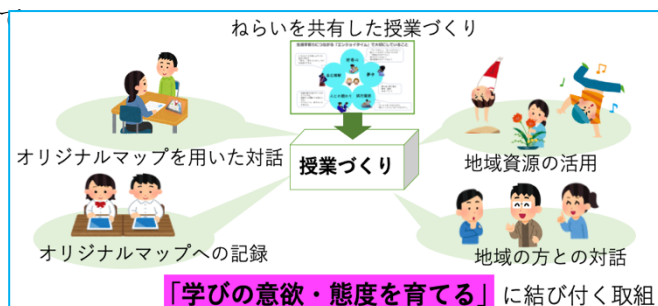


図2 授業の側面から見た各WGの取組

2 成果と今後に向けて

(1) 成果

①「生涯学習力」を高めるための授業づくりの基盤整備

児童生徒一人一人の「生涯学習力」を高めることを目的に、「生涯学習力」を高めるための授業づくりの基盤整備を全校体制で検討することができた。生涯学習という視点から学習の中で大切にしていることを導き出し、「生涯学習力」を意識し目標を明確に設定し、児童生徒の「生涯学習力」の変容を見取ることができた。オリジナルマップや地域資源の活用は、どのように学ぶかという学習過程に関わるものである。また、学部を超えたWGを組織し、学部の授業づくりとの往還的な体制で研究推進を図ってきたことで、児童生徒の将来を見通しながら「生涯学習力」を高めるための学習内容を検討することができた（図3）。加えて、教師の「生涯学習力」を意識した意図的な授業づくりを行ったことで、児童生徒

の興味・関心の広がりや深まり，仲間との協働の中で自分の得意な作業を見付けたり，責任をもって最後まで作業をやり遂げたり，他者のアドバイスを受け入れて問題を発見し，解決したりと，児童生徒の「生涯学習力」に結び付く変容を見取ることができた。

②ゆるやかなネットワークを構築するための対話

学習の目的の達成に向けて，これまでは，学校から一方的に地域資源活用を依頼することが多かったが，双方にメリットのある形を築いていくことでより持続可能な関係性が構築できる。そして，地域の方々が互いの活動内容を知り，地域の方同士が結び付くことで新たな可能性が生まれる。また，授業での関わりだけではなく，生涯学習を推進するという教育方針の共有や学部を超えた授業づくりの関わりなど，つながりを太くし，対話を増やすことで，ゆるやかなネットワークの構築になると考える（図4）。

（2）今後に向けて

①「生涯学習力」を高める授業づくりを積み重ね

今後も，引き続き単元や学年，学部において「生涯学習力」を高める授業づくりを積み重ねる。全校体制での積み重ねを通して，今年度とは対象の学習が変わったり，学習グループの児童生徒が入れ替わったりした際に，学習の中で出した「生涯学習力」を高めるために大切にすることは同一なのか，それとも異なってくるものなのかは検討していく余地がある。

また，「生涯学習力」を高めるために大切にすることを意識し，年間指導計画や単元計画を作成し，指導の形態相互の関係性も検討していく必要がある。

堤（2019）は，子どもの学びについて，モノ・ヒト・コトとの出会いと対話を通して，主体的に自らの世界を広げ深めていくことと定義できると言っているように，単元や年間を通して，児童生徒自身の世界の広がりや深まり，つまりは，変容の見取りを継続して行う必要がある。加えて，より効果的な見取り方や目標と評価の整合性を高めていきたい。

本校における「生涯学習力」を高める研究は，今年度で3年目を迎える。「生涯学習力」を高めるための学びを体験した卒業生の現在の様子を把握し，教育課程や授業改善に生かしていきたい。

②地域や家庭との対話や情報発信

地域の方の声を生かした授業づくりや，地域を舞台とした学習，学習の成果を地域で発揮する機会の創出，そして，学習の後の振り返りなどを丁寧に行うことで，社会への発信の一つになると考える。

物理的な距離や接触等に配慮が必要な世の中であるものの，今年度の本校の取り組みに関しては，過年度に比べ，地域との関わりの回数の増加や内容の充実が顕著に認められる。このような状況下であっても，地域との関わり方を工夫し，児童生徒の学びを止めない努力を継続して行っていく。

最後に，生涯にわたり学び続けるためには家庭の理解や協力は大きな要素と考える。保護者の方にも閲覧できる生涯学習の情報や，生涯学習の意義等を伝えたり，共有したりする機会も創出していきたいと考える。

このような実践を全校体制で継続的に行っていくことで，生涯にわたり学び続けるための要素に結び付き，引いては児童生徒一人一人の「生涯学習力」の高まりに結び付くものだと考える。

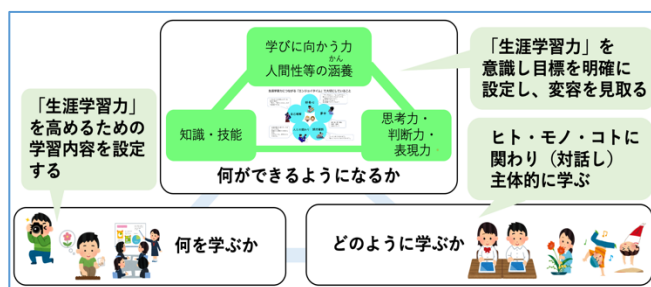


図3 授業づくりの基盤



図4 ゆるやかなネットワークの構築に向けて

3 夏のセミナー・公開研究協議会の記録

夏のセミナー (R3. 8. 18) の記録

講演講師 東京学芸大学 名誉教授 菅野 敦 様

演題 「生涯学習力」を高めるために学校で積み重ねる学びについて

令和3年秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 夏のセミナー No.1

附属学校の強みと使命

- 卒業生を追い続ける
- 生涯を貫いて、学校教育で育った姿が見つけやすい!

課題は...?

- 生涯を貫いた学びと学習指導要領を基にした学びにどう位置づけるか
- 個別の学びも集団の授業づくりにもどう活かすか

大人にならば教えなくてもいいが、増えたい、不思議だね。

学舎に集まる終着点

人を育く過程で... **大七の育つ力**

生きまろカ、学ぶ力、働く力、暮らす力

支援する側の課題は?

- 生活支援と余暇支援
- 暮らす力、学び楽しむ力
- 雇用先が重視すること
- 理解し行動する、あいつはetc
- コミュニケーション (円滑な対人関係)

障害者は生涯発達し続けるのか?

活躍・活動の場をいかに?

制限・制約はどこから?

- 知的障害があることから
- 10歳令に比べ高年齢にから

成年期以降は...

知的障害 + 健康高齢者プログラム


AAMR第9版の10領域 or ICTの活動領域の9領域

高年齢に、両分類可

学校では <可> (可) <可> <可>

生涯発達・地域生活支援 4領域 or 各領域で生涯学習を考えると、各領域ごとの領域をどれくらい支援するかわかる、とくる

どこにどんな現状が?



講師 菅野 敦 様

東京学芸大学名誉教授
日本発達障害学協会理事長

講演 2021.8.18. 14:45-15:55

生涯学習力を高めるために学校で積み重ねる学びについて

No.2

生涯... 実際の土地・地域生活に開く支援ニーズは?

- 学業や学習に対するニーズはほとんどなくなる...
- 生活能力が高くなる
- ネガティブな訓練をどう学ぶか求められている?
- 自己決定・自己選択
- 資源があることと知らなければ、ニーズにたらないの?

生涯学習支援の方向性

何を準備する? 何を提供する?

生涯発達支援 4領域

主体的な自己決定

今後の生涯学習支援の課題

- どこで学ぶ? 誰が企画・指導? 何を学ぶ?
- 社会教育施設 社会教育主宰 生涯発達支援の4領域

主体的に学習に向う態度

障害者支援において目指す主体性

自分の意識・判断に基づいて 自発的に行動すること

学習経験

学校教育の学び

主体的に向う姿勢

自発性

主体的な自己決定

主体的な自己決定

主体的な自己決定

主体的な自己決定

今後の学びの推進方策

学校から社会への移行期に必要な学習

- 学への習熟・学びに向う態度
- 課題解決の可能性 学びに向う態度
- 生涯の各ライフステージにおいて必要な学習
- 生涯発達マップの活用
- どのライフステージでどんな支援課題がある?

選択問題の解決過程の分析に基づき自己選択行動の形成も必要!

学校教育(12年間)は限られている。学校教育に特化してしまわないことが大切!

生涯学習の支援を目標化する

各期に4領域の活動・学習を通して態度を育てる

障害のある児童生徒の生涯学習の目標設定

- 学びに向う態度
- 学びへの態度 (学び続けること)

【課題】 教科課程にどう位置づける? 個別の支援も集団の授業にどう活かす?

公開研究協議会 (R4. 1. 29) の記録

講演講師 都留文科大学 准教授 堤 英俊 様

演題 生涯にわたって学び続ける子どもを育てる授業づくり


No. 1

秋田大学教育文化学部附属特別支援学校
令和3年度 公開研究協議会

第3部 【講演】

「特別支援学校における
“生涯にわたって学び続ける”
子どもを育てる授業づくり」

講師
都留文科大学
准教授 **堤 英俊** 先生



2022年1月29日(土) @オンライン


福岡出身 津井 義彦 先生 (特別支援学校アドバイザー)

大学・院で「学び」の研究 旭出 学園 (特支 教員)

広く 子ども・人間と 教育を研究

私立 旭出 学園 (東京・練馬)

「マタノ法」で コミュニケーション!



軽度の子どもたちへ関心

2019年 刊行

知的障害 教育の現場で「学び」の子どもたち

現場に 介助員として入って不研究。

インタビュー ライフ ヒストリー 子どもと 過す

子どもの 生活戦略 を切り口に、

本人なりの工夫知恵

1. 人が「学ぶ」とは

「障害児教育は、教育者の原点だ」とはよく聞かれるけど...

学び続ける 人生を 生きている人って?

多趣味? 先生? 校長先生? 教師? 若いうち? 井上雄彦さん! (スラムダンク) 2人の恩師 山西 優二さん

人の生涯とは 人が生きる

死を迎えるまで、ここに生きて

いつ死を迎えるのか、分からない

実践家である。

ゼミ生

生涯 学び続ける とくみ

「生涯 学び続ける」っていい... どうして私はそう思っているんだろうか...? これをひとごと!!

2. 生涯にわたって学び続ける 子どもを育てる授業づくり の覚え書

「言式行錯誤」の人生で 楽しく 苦しいもの

「学び」から 遊んでいる 子どもたち

君たちは どう生きる?

知らずのうちに なってしまうことも...

考えるとは どういう学び?

引き出し 引き上げ 引き出し 引き上げ 支える

暴力性 にならぬ。おせかい (17/7/30)

No. 2

いの方の重さの平等性

替えが 出かない

長さは 不平等

「からくも 生き残った人が 今をくついている」

その中で、 人が「学ぶ」とは?

ヒト・モノ・コトとの 出会い・対話

主体的に 自らの世界 を 拓げ 深めること。

学ぶ - 生きる

七刀 離れない!

偶発的 主体的 揺さぶり

自分の世界が 拓がった 経路とは?

自己を 揺さぶられる 系経線

学習指導 要領

人を幸せ にするか?

学校と社会の 学びは 重なる?

拓げ 深める 世界とは?

言語 論理 感覚 感情

「学力 = お宝」

「感受性 = 土台」

両方 大事に!

学ぶ 学び

「言式行錯誤」の人生で 楽しく 苦しいもの

「学び」から 遊んでいる 子どもたち

君たちは どう生きる?

知らずのうちに なってしまうことも...

考えるとは どういう学び?

引き出し 引き上げ 引き出し 引き上げ 支える

暴力性 にならぬ。おせかい (17/7/30)

どう触発されるか?
 相手の入ってくる
 子どもの世界
 理解しようとする
 身体と言葉をつかむ
 観察する
 見てから意見交換
 目と耳を
 きたえる

子ども理解とは?
 カラダの揺れ
 心の揺れ
 各経験をおいて
 個別に理解する
 内面
 発達
 社会
 実践をデザイン!
 教える人の構え
 女学者であること
 不即不離の
 間合いをはかる

特権
 大きな権力をコントロール
 個人を変えようとするのではなく
 場をつくる
 学び合いが生じよう
 生涯にわたって学び続ける子どもを育てるには
 学びにこだわる
 学びたいと思わせる
 原体験の保障
 学びにこだわる場を増幅
 授業の教授法に
 くれぐれありたい!

学びは続くよ
 どこまでも...



【引用・参考文献】

- (1) 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 「ひと・地域・未来をつなぐ」研究紀要第41・42・43集, 2015・2016・2017
- (2) 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 「本人主体の個別の教育支援計画（私の応援計画）を活用した教育課程の編成」研究紀要第44・45集, 2018・2019
- (3) 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 「児童生徒の『生涯学習力』を高める教育課程の編成」研究紀要第46・47集, 2020・2021
- (4) 亀井浩明（1998）「生きる力と生涯学習」財団法人全日本社会教育連合会
- (5) 菊地一文（2021）「知的障害教育における学びをつなぐキャリアデザイン-本人の思いや願いを踏まえた深い学びの実現に向けて-」ジヤース教育新社
- (6) 木村素子（2020）「10年後の子どもに必要な見えない学力の育て方」
- (7) 工藤勇一・青砥瑞人（2021）「自律する子の育て方」SB新書
- (8) 佐藤一子「生涯学習と社会参加 おとなが学ぶことの意味」東京大学出版社
- (9) 障害児の教授学研究会・堤他（2019）「アクティブラーニング時代の実践をひらく障害児の教授学」福村出版
- (10) 全日本特別支援教育研究連盟・向野他（2022）「特別支援教育研究」No. 769, 02～05
- (11) 高橋基裕・藤井慶博（2020）「当事者主体の個別の教育支援計画の実践とその効果に関する研究」発達障害研究
- (12) 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（2018）「障害者の生涯学習活動に関する実態調査」平成29年度文部科学省委託事業「生涯学習施策に関する調査研究」
- (13) 内閣府（2020）「障害者基本計画」
- (14) 文部科学省（1981）「生涯教育について（答申）」中央教育審議会
- (15) 文部科学省（2010）「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」
- (16) 文部科学省（2010）「特別支援教育の在り方に関する特別委員会 論点整理」
- (17) 文部科学省（2012）「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進〈報告〉」
- (18) 文部科学省（2012）「障がいのある学生の修学支援に関する検討会報告（第一次まとめ）」
- (19) 文部科学省（2016）「教育課程企画特別部会 論点整理」
- (20) 文部科学省（2016）「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」について
- (21) 文部科学省（2017）「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）」
- (22) 文部科学省（2017）「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」
- (23) 文部科学省（2017）「特別支援学校学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）」
- (24) 文部科学省（2017）「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」
- (25) 文部科学省（2018）「学校卒業後における障害者の学びの推進方策について（論点整理）」
- (26) 文部科学省（2018）「障害者の生涯を通じた多様な学習活動の充実について」
- (27) 文部科学省（2018）「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策（最終まとめ）」
- (28) 文部科学省（2018）「第3期教育振興基本計画」
- (29) 文部科学省（2019）「障害者活躍推進プラン～障害のある人の力を生かして未来を切り開くために必要な5つの政策プラン～」
- (30) 文部科学省（2019）「障害者の生涯学習の推進方策について（通知）」
- (31) 文部科学省（2019）「障害者の生涯学習の推進方策について—誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して—（報告）」
- (32) 文部科学省（2019）「特別支援学校高等部学習指導要領」
- (33) 文部科学省（2021）「特別支援教育」No. 82・No. 83